

よりよく生きる

今回は、道徳の22の内容項目の中の「生命の尊さ」に関する詩を紹介したいと思います。この詩を読んで、御家庭で生命の尊さについて話し合う機会を持っていただけると幸いです。

生命を考える

今、自分がここに生きていることの偶然性。
誰もがいつか必ず死を迎えるという有限性。
そして、先祖から受け継ぎ、子孫へ受け渡していく連續性。
さらに、自分は他の誰でもない、唯一無二の存在であること。
私たち人間ばかりではなく、生きとし生けるもの全てに思いをはせてみる。
考えてみよう、生命とは何なのかということを。



生命を考える 偶然性 今ここにいる不思議

地球の永い歴史を考え 人類の誕生を考え そして今ここにいる自分を考えてみる。
こうやって生きていること 存在していることが 何か不思議に思えてくる。
私の周りに いつもの笑顔 いつもの声。
でも、この人たちとの出会いも 今、ここに生命を授かっているからこそ。
星の数ほどの偶然があって 私が、今ここにいることの不思議。
生きていることの有り難さ。



生命を考える 有限性 いつか終わりがあること

大切な人をなくしたことありますか。 自分の生命にも いつか終わりがやってくる。
一度しかない この生命の証を 自分はこの世に どのように刻んでいけばよいのだろう。
もっともっと 生きていることを実感し、喜びたい。
そして、かけがえのない私の人生を、生命を もっともっと輝かせていきたい。

生命を考える 連續性 ずっとつながっていること

この生命は私のもの。 誰のものでもない、かけがえのない私の生命。
でも、どこからやってきたのだろう。 ——そう これは私が受け継いだもの。
ずっと遠い昔から受け継がれ 私が受け取ったもの。
この生命は私の生命だけれど 私だけのものではない。
私は生命というたすきを受け取り 人生というコースを 走り切らねばならぬ駆逐走者。
転んでも、立たなければならない。 くじけるわけにはいかない。
たすきを私に届けてくれた人たちのためにも、
そして私のたすきを 待っている人たちのためにも。